

仙台水族館（仮称）を通じた 地域振興について

（株）横浜八景島 取締役社長・館長

ふるかわ のぶゆき
布留川 信行氏



【プロフィール】
1950年千葉県生まれ。1972年に中央大学を卒業後、西武不動産㈱入社。1987年横浜市による「横浜市八景島開発事業提案競技」に参画、横浜・八景島シーパラダイスを企画・実施した。1990年2月に設立された㈱横浜八景島で営業部長、アクアミュージアム支配人などを歴任し、2003年3月取締役社長に就任。2013年4月より、西武レクリエーション㈱取締役社長を兼任。

5月15日に実施した当所小売商業部会・卸売商業部会・貿易部会・理財部会・交通運輸部会・文化観光部会合同常任委員会の講演を要約したものです。

秋田県との縁から 東北の観光を元気に

仙台水族館（仮称）（以下、仙台水族館）の概要は、まだまだ決定していかないことがたくさんあります。そこで、仙台水族館が地域振興にどのように貢献していくのかについては、私どもの施設である横浜・八景島シーパラダイス（以下、シーパラダイス）の現状を説明させていただくことで、ご理解いただけるものと思います。

私自身、実は東北に縁がありまして、十数年前に秋田県の男鹿水族館の建て直しに関わる機会を得ました。そのときに、秋田の物産や観光地の魅力を首都圏でアピールするキャンペーンを実施したのですが、これが大変な効果を生みあげました。2011年3月に震災が起き、東北の観光が大変なことになっていると聞いたとき「私たちが、いまできることを」と思い、宮城県庁を訪

問。これまで秋田県の観光を応援してきた実績を申し上げ、「観光を応援することができませんか」と協力を申し出ました。そのときからすでに3年が経過しましたが、東北の観光を応援する活動は今後も続けてまいりたいと思っています。

日本の海のブランドを 仙台水族館で回復

私たちの施設であるシーパラダイスは、横浜市、そして横浜にある多くの企業と共に活動しております。仙台水族館も、宮城県、仙台市、そして地域の皆さまとともに運営していく所存です。

仙台水族館の運営については、三井物産様よりお話をいただきました。お引き受けすることになった後に、東日本大震災が発生。真の意味で地域に貢献する、そして東北の象徴となるような水族館にしなければならぬという思いが一層、強くなりました。そしていま、東北の企業を含む6社の皆さまで設立した仙台水族館開発（株）を中

心に、建設を進めている状況です。

最初に今回の仙台水族館を私たちが運営するにあたり、どのような決意をもってスタートを切ったのかというお話をさせていただきます。

東日本大震災が起こり、横浜でもライフラインが途絶え、電気や水が不足する中で、私たちは事業の再開を決めました。そのとき、社員から真っ先に出したのは、「こんなときに水族館や遊園地の事業をやるのですか」という問いでした。私は「この非常時に、もし私たちの企業が何の役にも立たないのであれば、平時にも存在する価値はないであろう」と言いました。そして、この非常時に、私たちが存在する価値を皆で考えました。その結果、現場に赴いて応援することが第一で、それ以外にも多くの活動を実行するに至りました。例えば、福島県のスパリゾートハワイアンズさんと連携して集客を図ったり、東北の高校生が復興の状況を横浜市に報告したりする企画を行いました。このような活動の精神は、建設を進めている東北の、この仙台の水族館に受け継がれ、子どもたちの未来

のために、きつと役に立って行くであろうと思いますし、同時に地域振興にも貢献できると思っています。

水族館は、元々もっている生物を介して、子どもたちに自然や生物について学んでもらう役割を担っていますが、いまはもう一つ、大切な役割が加わりました。日本人にとつての恵みの海が、大きな地震が起こり、津波が起こってからは、海は脅威の部分が見え、大きくなっていきます。日本の海のブランドは、誰かがしっかりと回復していかなければならぬと思います。私たちのような水族館を運営していくものが、海の恵みや生物や現象のすばらしさを紹介することで、アピールへとつながっていくのです。そして、それを仙台水族館で達成したいと思っています。

社会のニーズを捉えて 変化する水族館

次に、シーパラダイスがどのような施設であるかをご説明いたします。実は仙台水族館と置かれている状況が極めて似ています。シーパラダイスが



仙台水族館は仙台港インターチェンジに隣接し、周辺商業施設と集客面での相乗効果が期待できる立地。2015年春開業の予定で、年間130万人以上の来場者を見込んでいる。

る島は横浜市が埋め立ててつくった島で、仙台水族館は、高砂中央公園という仙台市の都市計画公園で事業をやることとなります。島と内陸部の公園という違いはありますが、属性は極めて似ており、シーパラダイスは横浜市および市民と共に事業を行ってきました。そこには「アクアミュージアム」をはじめ、海の中を体感できる「うみファーム」など、全部で4つの水族館があり、動物たちのショーも開催しています。

「アクアミュージアム」は20年前、水族館がオープンしたときにできました。当時は大きな水槽で魚を見ることが

ができたり、イルカやアシカのショーが見られれば良いという時代でした。しかし時代の変化と共に、お客さまのニーズも変化していきました。癒しよりも、積極的に動物と触れ合ってみたいという声に答えて、「ふれあいラゲーン」という水族館をつくりました。社会の変化と共に発展していく。仙台水族館も、きつとそうなるだろうと思います。いま、人々が何を求めているか、それにあつた施設を企業の皆さんと作っていくことができる協力関係を構築していきたいと考えています。

仙台の観光ブランドに 磨きをかける存在へ

水族館があることによって、どんな効果があるかについてお話ししますが、シーパラダイスの事例になりますが、生物保護に寄与しているというのがまず一つ。また、横浜市の行政や大学、国の研究機関と共にさまざまな研究を行っています。さらに現在、横浜市がめざす「環境未来都市」、これは世界的に進む都市化を見据え、持続可能な経済社会システムを実現する都市・地域づくりを目指すというものです。私たちも観光事業、水族館事業を行う企業として、積極的に参画しています。このようなことを通じて、水族館とは直接関係がない事業を行う企業の皆さんとも連携する機会を通して、仙台の都市の魅力に磨きをかけることになるのではないかと思います。

この20年の間には、横浜の多くの企業や市、観光協会による国内外のキャンペーンを同時に展開し、それによって大勢のお客さまが来てくださるようになりました。仙台にはすでに多くの観光地があり、魅力的に発展していると認識しています。ですから、私たちが水族館を運営することによって、この観光ブランドが少しでも上に向くようにがんばってやっていきたいと思っています。そして、水族館というものは間違いなく仙台の観光ブランド、観光集客、ひいては交流人口の拡大に役立つでしょう。

元氣な東北を象徴する 水族館を目指して

魅力的な水族館にするためには、魅力的な生物を入れることが必要不可欠ですが、その点は、まだまだ検討の段階で、これから準備をしていかなければなりません。大勢のお客さまに集まっていたくためには、水族館だけの努力では大きな力を生み出すことができます。本日ご参加の皆さまにいろいろな形でご協力をいただき、仙台に水族館があることによって、その波及効果が地域全体に広がるような、そんな関係が構築できればとても良いのではないかと思います。

仙台水族館の理念は、東北の復興を目指すことを基盤として、東北の自然の魅力を伝える場としての存在価値を追求することです。いろいろな意味で、

「元氣な東北を象徴する水族館」になることが望ましいと考えています。

また、震災に対して世界中からたくさんのお支えをいただきました。その思いに込める意味においても、世界中の生物の魅力もしっかりと伝えることができればと思っています。さらに水族館の要素には、エンターテインメントがありますので、イルカをはじめ、ペンギンやアシカなど、子どもから大人まで、みんなが大好きな生物を見ていただけるように準備をします。また生物と触れ合うことができたり、海の中に入っていくことができたりする場というものを、ぜひ設けたいと考えています。恵み豊かな三陸の海を再現した大水槽、川の魅力をうまく引き出した展示方法など、見所となるものの展示方法についても、現在、計画を立てているところです。

さらに環境への取り組みは21世紀に求められている課題であり、エネルギーの効率化を全体の展示を通して実施し、小さい子どもたちも含めて、できるだけ多くの人に環境、そして生物の大切さを伝えられるような水族館にしていきたいと思っています。仙台水族館が仙台の未来をよりすばらしいものにするきっかけになる、また、市民の皆さんが「水族館ができて良かった」と思っていただけの内容を目指してまいりますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。